

記入例（大学奨学生）

自宅外通学希望者(朱書)

自宅外通学

受 付No.
奨学生No.

奨 学 生 願 書			
(ふりがな)	ひたち いちろう		(満〇〇歳)
本人氏名	日立 一郎 (男) (女)		平成〇〇年〇〇月〇〇日生
本 籍 地	茨 城 県 日 立 市 助 川 町 1 丁 目 1 番		
現 住 所	日立市 助 川 町 1 - 1 - 1		電話番号 (2 2) 3 1 1 1
希望する奨学金	※ 入学準備金を希望する場合は「○」、希望しない場合には、「×」を記入する。	希望する貸与期間	令和 〇〇 年 4 月から 令和 〇〇 年 3 月まで 4 年 箇月間
進学希望校 <small>(在学している場合はその学校名・学年)</small>	〇 大 学 (短大) 修学資金 〇 " " 入学準備金		
本人履歴	平成〇〇年3月 神峰 中学校卒業	年 月	科
健康診断	既往症 病 名 最近の健 医師名	1年以内に学校で定期健康診断を受けて、修学上支障がないと認められている方は、健康診断欄は空欄のままかまいません。ただし、卒業生等は、健康診断を受けて、医師に記入してもらってください。	影・6×6 cm判) 期 月 日 関 の所見 (印)
奨学金希望理由 <small>(経済状況など)</small>	高校に就学している弟がいるため、学費の負担が困難な状態です。 教員の資格をとるために大学へ進学したいので、奨学金の貸付けを希望します。 月額で記入してください。また、授業料、学校納付金は進学希望校のHPなどを参考に、概算で記入してください。		
学資の内訳	食 費	円	授 業 料 41,400 円
	住 居 費	円	学 校 納 付 金 5,000 円
	交 通 費 16,000	円	そ の 他 20,000 円
	学用品費 16,000	円	計 98,400 円

生計を同じくする家族のみ記入してください。

家族の状況	続柄	氏名	年齢	職業	勤務先	年収(税込)	父(母)死亡のときは、その死亡年月日 年 月 日 (歳)	
	○ 父	日立 太郎	50	会社員	〇〇工業	7,100,000 円		
	○ 母	日立 花子	48	無職			就学者在学 名及び学年	奨学金貸 与の有無
	本人	日立 一郎	18	学生			日立高1年	※有 (無)
	弟	日立 二郎	16	学生				
	姉	日立さくら	24	会社員	△△サービス	3,500,000 円		有・無
	× 祖父	日立一太郎	79	無職				有・無
合	続柄の前に家計支持者には○、生計を同じくする別居家族には× をつけます。別居者の住所等は備考欄に書いてください。							有・無
備考	日立一太郎 〇〇特別養護老人ホーム(日立市〇〇町〇-〇-〇)に入居中。 ※生計を同じくする家族が市外に居住している場合は、 日立一太郎 〇〇のため、〇〇(水戸市〇〇町〇-〇-〇)に在住 と書いてください。							
所得	給与所得	※商業・工業・林業・漁業所得		農業所得		その他の職業所得		
	年収 10,600,000 円	年収 円		年収 円		年収 円		
特別控除	賞与、諸手当 その他を含む	年売上高	円		(自家用消費分を含む) 耕作面積 { 田 アール 畑 アール 山林等面積	※原稿料、各種報酬、 恩給、遺族年金、扶助料 利子収入、間代、家賃、 その他		
		営業支出	円			[]		
		営業利益	円					
母子世帯	※	×	千円		長期療養者のいる世帯	※	×	千円
就学者					家計支持者が別居している世帯			
小学校児童					災害罹災世帯			
中学校生徒					父母以外に所得収入者のい る世帯			
高等学校生徒	○							
大学生					計			千円
身障者世帯	○							
<p>以上のとおり記載に相違ありません。 奨学生として採用いただきたくお願い申し上げます。 令和 〇〇 年〇〇月〇〇日</p> <p>本人 氏名 日立 一郎 連帯保証人 住所 日立市助川町 1-1-1 氏名 日立 太郎</p> <p>日立市教育委員会殿</p>								

記入上の注意

- ※印のところは、該当のものに○をつける。×印のところは記入しないこと。
- 本人の履歴は、休学、転学、退学等の異動も理由を付けて漏れなく記入すること。
- 健康診断の欄は医師が記入すること。出願年度に実施された学校保健安全法による定期健康診断を受けて修学上支障がない場合には、空欄のこと。
- 奨学金希望理由は具体的に、くわしく記入すること。
- 学資の内訳のうち、自宅通学者は食費、住宅費は記入しないこと。
- 家族の状況のうち、続柄の前に家計支持者には○、別居者には×をつけること。
- 所得は家族全員の収入を記入し、父及び母又はこれに代わって家計を支えている者について、前年度の所得証明書(源泉徴収票、給与支払報告書等)を添えること。また、所得額は、全て税込の額を記入すること。
- 連帯保証人は、独立の生計を営む父母兄弟又はこれに代わる者(本人が未成年者であるときは親権者又は後見人)で将来償還金返還の責任を負うものであること。
なお、奨学生として選定されたときは、さらに別の保証人が必要となるので考慮しておくこと。